2026 年 4 月 10 日

～毎月 10 日は人権を考える日～

「マイクロアグレッション」とは・・・

マイクロアグレッションとは、無意識の偏見や思い込み（アンコンシャス・バイアス）が言葉や態度に現れ、否定的なメッセージとなって伝わり意図せず誰かを傷つけてしまうことを言います。多くは日常の中の些細な言動であり「自覚なき差別」とも言われています。

マイクロアグレッションは、発言した本人には悪意があるわけではなく否定的な言動をしているという意識はないため、「そんなつもりはなかった」「それぐらいのこと」と理解されないこともあります。　（参照：「人権教育リーフレット」大阪府教育センター）

マイクロアグレッションの例	問　題　点
○　会社の社長が「性別や障がいなんて関係ない。実力さえあれば、ちゃんと評価する」と言う。	・現実には障がいや性別のために不利になりやすいのに、同じスタートラインで競争できるかのように言うのは、問題があったとしたら、個人の能力不足ということになってしまう。
○　中国からの留学生に、「日本語上手だし、中国人に見えないね！」と言う。	・「ほんとうは」日本人ではない、よそ者であるというメッセージかもしれない。 ・日本人であることがよい。
○　理数科系科目の成績がいい女子学生に、「そんなにがんばってどうするの？」と尋ねる。	・女性は理数科系が苦手である、成績はよくないはず、理数科系を専門にするわけがない、という思い込みにもとづく発言
○　わざわざ学校で教えるから、部落差別がなくならないのでは？	・教えるなということは、今すでに差別にあっている人に、泣き寝入りを強いることになりかねない。教えないことが部落問題の解決にはならない。

マイクロアグレッションは、相手に対して「意図をもってなされる差別言動」とは違い、無意識にされることが多いのです。しかし、「差別」であることには間違いありません。そのため、本人の意図にかかわらず、受け手にとってはとても大きな痛みを感じることになります。

最近は、マイクロアグレッションのような差別が多いと言えます。「もう差別などない」「私は差別などしたことない」といった言葉を聞くことが多くなってきました。「意図ある差別」は少なくなっていると言われることもありますが、心の中に「差別意識」が潜んでいる場合は、こういった差別行為として現れることがあることを、しっかり認識していることが大切です。

マイクロアグレッションは、あらゆる領域の人権課題の中に現れます。特に、人種や国籍、ジェンダー、門地などのマイノリティ（外国人、女性、性的マイノリティ、障がい者、部落出身者）などにおいて、経験されている方々が多いとも言えます。

西条市人権教育協議会 西条市人権共生課